

研究論文 日本語動詞「きく」のコロケーション について：WEBコーパスと日本語母語話者・上級日 本語学習者の判断から

著者	小野 正樹 , 朱 ??, デヒピティヤ スランジ ディ ルーシャ , 李 国玲, スワンナクート パッチャラ ーパン
雑誌名	筑波大学留学生センター日本語教育論集
号	30
ページ	1-20
発行年	2015-02-28
その他のタイトル	(Research Articles On the Collocation Japanese Verb “KIKU” : from the decision of the Japanese native speakers and advanced learners of Japanese and WEB corpus
URL	http://hdl.handle.net/2241/00125037

日本語動詞「きく」のコロケーションについて

—WEBコーパスと日本語母語話者・上級日本語学習者の判断から—

小野 正樹 朱 炫姝 デヒピティヤ スランジ ディルーシャ
李 国玲 スワンナクート パッチャラーパン

要 旨

日本語動詞「きく」は、複数漢字表記があり、かつ多義である。本稿では基本義として6種類に分け、どのようなコロケーションが日本語教育に有効かを探る。はじめに日本語コーパス『NINJAL-LWP for TWC』を用いて、「聞く」「効く」「利く」「きく」から頻度の高いコロケーションを抽出する。次に、その中から日本語母語話者と上級日本語学習者の視点で、必要性の高いコロケーションを選択した。日本語母語話者の判断は、共通して総じてコーパス頻度と正の相関を見せたのに対し、一方、日本語学習者では選択が多様であり、かつ正の相関が少ないことが明らかであることを述べる。

【キーワード】 基本義 コーパス 主観的判断

On the Collocation Japanese Verb "*KIKU*":
from the decision of the Japanese native speakers and
advanced learners of Japanese and WEB corpus

ONO Masaki, JU Hyunju, DEHIPITIYA Dilusha,
LI Guoling, SUVANAKOOT Patcharaphan

[Abstract] The Japanese verb "*KIKU*" may be written with multiple kanji characters, and is polysemous. We explore what types of co-locations can be beneficial for Japanese education. Using the Japanese corpus "NINJAL-LWP for TWC", we surveyed the top 100 co-locations of "聞く" "効く" "利く" and "きく". Then, from the perspective of Advanced Japanese learners and native Japanese speakers, we selected those co-locations deemed must necessary from among them. The Judgments of native Japanese speakers showed a positive relationship with corpus frequency. In the case of learners of Japanese, on the other hand, a less positive relationship was seen, and a diversity among selections prevailed.

[Keywords] basic meaning, corpus, subjective judgment

1. コロケーションとは

言語研究、言語教育、そして、辞書作成でもコロケーションの重要性が指摘されている。基本語彙であればあるほど、専門語彙に比べて種類豊富なコロケーションを持ち、また、語彙の意味も多義である。では、日本語教育にどのようなコロケーションが必要かと言えば、コーパス言語学の発達に伴い、種類や頻度の傾向は見えてきたが、そのまま日本語教育に有効であるとは言えないであろう。そこで、本稿ではコーパスで抽出した頻度の高いコロケーションについて、日本語母語話者と上級日本語学習者に、日本語生活に必要なコロケーションを選ぶよう依頼した。両者の判断とコーパス上の頻度との関係を追究するのが本稿の目的である。

ここで言うコロケーションとは、複数の語から成立する結合体として、一定の文法的まとまりをもち、かつ、その結びつきは一定の強度を持つもので、結びつき自身がまったく新しい意味を担う慣用句を含めた、自由結合句（文法的に許される語の結合）と定義する。慣用句とは結びつきが非常に強く、活用変化が生じないものである。例として、「聞く耳を持たない」では、「聞きます」「聞かない」「聞かだろう」などのように「聞く」を活用変化した場合には不成立となるが、「彼は人の話を聞く」では、「聞きます」「聞かない」「聞かだろう」のいずれの活用でも意味は成立する。動詞が活用しても、成立することを自由結合句とする。

また、コロケーションの強度を測る計算式として、TスコアやMIスコアが代表的だが、本稿では敢えて主観的判断を判断基準とする。その理由として、大規模コーパス資料は均衡であっても、日本語学習者には難易度のあるもの、特殊な表現も多々含まれ、日本語教育には必ずしも有効とは言えないからである。

2. 動詞「きく」について

日本語動詞「きく」については、「聞」「聴」「効」「利」「訊」と複数の表記がある。本研究は動詞「きく（聞・聴・効・利）」の基本義（小野・小林・長谷川2009）をもとに、コロケーションの使用頻度を調査した。「聞く」「効く」「利く」「きく」を同一に扱う理由は、音韻的に同じ語彙に対して、日本語学習者がどれほど違いを意識しているかという発想に基づく。例として、「口を利く」という表現について、「口を聞く」と漢字表記したケースが多々見られた。「口を利く」とは話すことで、「話す」の対である「聞く」を連想し、必ずしも「利く＝口を利用する」といったことを考えてはいないと思われる例である。

(1) 先生に生意気な口を聞いて、考えてみると恥ずかしかった。(中国人日本語学習者)

この文から、たとえ漢字圏学習者であっても、日本語を音声言語として理解し、表記の

違いを意識することなく、日本語を理解していると思われる。さらに、『広辞苑』第六版では、「聞く」の項目に「物事をためし調べる。」（「利く」とも書く）という記述や、「効く」と「聞く」は「同源」という記述もある。

では、「きく」にはどのような意味があるのだろうか。本稿では、小野・小林・長谷川(2009)で示した「きく」の6つの基本義、①「耳で感じる」、②「相手の言うことを受け入れる」、③「質問する」、④「能力や機能を発揮する」⑤「利用できる、可能である」、⑥「技能がすぐれている」を基に分析を進めることとする。動詞「きく」は「音、声、言葉などを耳に感じとる」ことが原義であるが、「その内容を知り」、「人の言葉に従う」ことへの意味拡張が起き、「答えを耳に入れようとして、人に尋ねる」という意味を獲得する。

〈表1〉動詞「きく」の基本義（小野・小林・長谷川（2009）より）

① 耳で感じる：例「音楽を聞く」
② 相手の言うことを受け入れる：①を踏まえて、より積極的に理解すること：例「頼みを聞く」
③ 質問する：①が可能になることを相手に依頼する：例「答えを聞く」
④ 能力や機能を発揮する：例「気が利く」
⑤ 利用できる、可能である：例「融通が利く」
⑥ 技能がすぐれている：例「腕が利く」

3. 調査1 『NINJAL-LWP for TWC』における「聞く」「効く」「利く」「きく」

3.1 調査1 コーパスを利用した頻度調査

どのような名詞がコロケーションとして現れるかを、コーパスを利用して調査する。利用コーパスは『NINJAL-LWP for TWC』で調査日は2014年9月29日～30日である。「聞く」「効く」「利く」「きく」の4動詞の、ガ格、ヲ格、ニ格、デ格で現れた頻度上位100^(註1)のコロケーションの名詞をカテゴリー化するために『計算機用日本語基本動詞辞書IPAL (Basic Verbs)』(1987)を利用した。名詞のカテゴリーは表2に示す14種類とした^(註2)。

〈表2〉名詞の意味素性（『計算機用日本語基本動詞辞書IPAL (Basic Verbs)』より）

1. 人間（先生、私）	6. 数量（3人、5冊）	11. 生き物の部分（頭、爪）
2. 組織（学校、税務署）	7. 性質（長さ、美しさ）	12. 自然（天気、雷）
3. 物（車、パン）	8. 動作（勉強、運動）	13. 抽象名詞（態度、工夫）
4. 場所（公園、学校）	9. 動物（犬、猫）	14. その他
5. 時間（去年、3時）	10. 植物（花、木）	

以下に、動詞の表記ごとに数値を記す。

〈表3〉「…が／を／に／で聞く」と共起する名詞の意味素性 (合計件数100件)

…が聞く		…を聞く		…に聞く		…で聞く	
意味素性	件数	意味素性	件数	意味素性	件数	意味素性	件数
1. 人間	74	13. 抽象名詞	87	1. 人間	58	4. 場所	37
13. 抽象名詞	18	3. 物	6	14. その他	15	13. 抽象名詞	28
2. 組織	4	14. その他	3	5. 時間	13	3. 物	12
14. その他	3	1. 人間	1	13. 抽象名詞	8	5. 時間	5
11. 生物部分	1	5. 時間	1	2. 組織	3	11. 生物部分	5
		6. 数量	1	4. 場所	2	1. 人間	4
		8. 動作	1	意味不明	1	2. 組織	4
						14. その他	3
						6. 数量	1
						7. 性質	1

〈表4〉「…が／を／に／で効く」と共起する名詞の意味素性 (合計件数100件)

…が効く		…を効く		…に効く		…で効く	
意味素性	件数	意味素性	件数	意味素性	件数	意味素性	件数
3. 物	44	3. 物	44	13. 抽象名詞	45	13. 抽象名詞	36
8. 動作	26	13. 抽象名詞	32	14. その他	21	14. その他	18
13. 抽象名詞	21	8. 動作	12	1. 人間	10	4. 場所	11
14. その他	6	11. 生物部分	5	11. 生物部分	8	3. 物	9
1. 人間	1	14. その他	5	4. 場所	5	5. 時間	8
2. 組織	1	2. 組織	1	8. 動作	5	8. 動作	6
6. 数量	1	7. 性質	1	5. 時間	2	6. 数量	4
				7. 性質	2	2. 組織	3
				2. 組織	1	1. 人間	2
				3. 物	1	11. 生物部分	2
						9. 動物	1

〈表5〉「…が／を／に／で利く」と共起する名詞の意味素性（合計件数100件）

…が利く		…を利く		…に利く		…で利く	
意味素性	件数	意味素性	件数	意味素性	件数	意味素性	件数
8. 動作	34	13. 抽象名詞	38	14. その他	34	13. 抽象名詞	39
13. 抽象名詞	31	3. 物	22	13. 抽象名詞	20	14. その他	21
3. 物	11	8. 動作	22	4. 場所	11	4. 場所	10
11. 生物部分	8	11. 生物部分	7	1. 人間	9	3. 物	7
14. その他	8	14. その他	6	8. 動作	8	1. 人間	6
1. 人間	6	6. 数量	2	5. 時間	5	8. 動作	5
2. 組織	1	1. 人間	1	2. 組織	4	2. 組織	4
7. 性質	1	4. 場所	1	3. 物	4	12. 自然	4
		意味不明	1	11. 生物部分	2	5. 時間	2
				6. 数量	1	6. 数量	2
				7. 性質	1		
				意味不明	1		

〈表6〉「…が／を／に／できく」と共起する名詞の意味素性（合計件数100件）

…がきく		…をきく		…にきく		…できく	
意味素性	件数	意味素性	件数	意味素性	件数	意味素性	件数
8. 動作	37	13. 抽象名詞	66	1. 人間	37	13. 抽象名詞	32
13. 抽象名詞	25	8. 動作	11	14. その他	25	4. 場所	17
3. 物	12	3. 物	9	13. 抽象名詞	12	2. 組織	10
1. 人間	10	14. その他	8	5. 時間	11	5. 時間	10
14. その他	8	4. 場所	2	4. 場所	7	8. 動作	10
11. 生物部分	6	5. 時間	2	2. 組織	5	3. 物	6
2. 組織	2	1. 人間	1	8. 動作	1	14. その他	6
		11. 生物部分	1	11. 生物部分	1	1. 人間	4
				12. 自然	1	6. 数量	2
						11. 生物部分	2
						7. 性質	1

共通して言えることは、ガ格、ヲ格と比べると、ニ格、デ格では現れる意味素性が多様になることである。このことは、ガ格が主格と対格、ヲ格は対格のみの用法を持つのに対して、ニ格、デ格では相手、時間、場所、道具、原因などより多様な意味役割をもつもの

が含まれるからであろう。また、「聞く」のガ格では人間が際だって多いのに対して、「効く」「利く」では減少するが、一方で、ヲ格ではいずれも抽象名詞が多くを占めている。

3.2 調査2 「聞く」「効く」「利く」「きく」の頻度の高い基本義

次に、各コロケーションがどの基本義をもつのかの調査報告である。その場合に複数の基本義を持つこともあり、述べ語数として示す。例として、「が聞く」での上位100は、以下のものである。

私が聞く、声が聞く、人が聞く、【人名】が聞く、さんが聞く、ほうが聞く、たちが聞く、意見が聞く、者が聞く、言葉が聞く、自分が聞く、僕が聞く、【一般】が聞く、あなたが聞く、話が聞く、だれが聞く、ことが聞く、のが聞く、これが聞く、それが聞く、先生が聞く、相手が聞く、感想が聞く、おれが聞く、子供が聞く、彼が聞く、音が聞く、皆が聞く、我々が聞く、こちらが聞く、【組織】が聞く、自身が聞く、皆さんが聞く、何が聞く、らが聞く、達が聞く、彼女が聞く、員が聞く、家が聞く、親が聞く、母が聞く、誰かが聞く、人間が聞く、女性が聞く、氏が聞く、社長が聞く、スタッフが聞く、大臣が聞く、【地域】が聞く、曲が聞く、お話が聞く、他人が聞く、学生が聞く、本人が聞く、医師が聞く、男が聞く、音楽が聞く、人々が聞く、君が聞く、祈りが聞く、委員が聞く、生徒が聞く、友人が聞く、様が聞く、歌が聞く、耳が聞く、方々が聞く、大人が聞く、職員が聞く、ものが聞く、全員が聞く、主人が聞く、母親が聞く、会が聞く、娘が聞く、子が聞く、官が聞く、方が聞く、お客様が聞く、どもが聞く、家族が聞く、ちゃんが聞く、カウンセラーが聞く、友達が聞く、夫が聞く、妻が聞く、会話が聞く、お母さんが聞く、側が聞く、神が聞く、長が聞く、噂が聞く、父が聞く、男性が聞く、裁判官が聞く、記者が聞く、国民が聞く、説明が聞く、どちらが聞く、弁護士が聞く

各コロケーションがどの基本義を有しているか、文を参照しながら、分析した。

〈表7〉動詞「聞く」のコロケーション上位100に見られる意味(数値は述べ語数)

名詞+助詞情報	件数	①耳で感じる	②相手の言うことを受け入れる	③質問する
総数	330,942	387	86	288
「...が聞く」	18,860	97	67	76
「...を聞く」	211,825	97	15	46
「...に聞く」	70,570	94	3	88
「...で聞く」	29,687	99	1	78

基本義①については、いずれの名詞句においても基本義①を維持しているが、基本義②はガ格のみ半数を超えるが、基本義③は誰に質問するかを示す二格の数値が最も高い。

〈表8〉動詞「効く」のコロケーション上位100に見られる意味(数値は述べて語数)

名詞+助詞情報	件数	④能力や機能を発揮する	⑤利用できる、可能である	⑥技能がすぐれている
総数	31,687	366	36	1
「...が効く」	10,630	79	22	1
「...を効く」	1,096	87	11	0
「...に効く」	7,467	100	0	0
「...で効く」	1,544	100	3	0

〈表9〉動詞「利く」のコロケーション上位100に見られる意味(数値は述べて語数)

名詞+助詞情報	件数	④能力や機能を発揮する	⑤利用できる、可能である	⑥技能がすぐれている
総数	10,674	200	215	10
「...が利く」	4,978	56	46	4
「...を利く」	1,793	49	36	1
「...に利く」	1,013	68	48	4
「...で利く」	667	27	85	1

「効く」「利く」では④から⑥の意味に限られ、「効く」ではどの格でも④能力や機能を発揮するに集中している。「利く」については、基本義④⑤の両者に該当するものが多く、「効く」よりも「利く」の方が多義であることが伺える。

〈表10〉動詞「きく」のコロケーション上位100に見られる意味(数値は述べて語数)

名詞+助詞情報	件数	①耳で感じる	②相手の言うことを受け入れる	③質問する	④能力や機能を発揮する	⑤利用できる、可能である	⑥技能がすぐれている
総数	14,702	111	11	100	78	81	0
「...がきく」	4,980	13	0	9	42	45	0
「...をきく」	6,163	64	10	33	14	11	0
「...にきく」	2,458	34	1	58	22	25	0
「...できく」	1,101	0	0	0	0	0	0

「きく」については、音声的には曖昧であっても、格によって基本義が確定されることがわかる。「がきく」ならば④「能力や機能を発揮する」⑤「利用できる、可能である」、「をきく」であれば①「耳で感じる」、「にきく」ならば基本義②「質問する」といった傾

向がある。

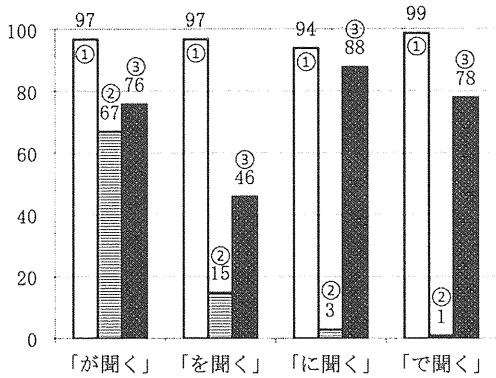


図1 動詞「聞く」のコロケーションの上位100に見られる意味

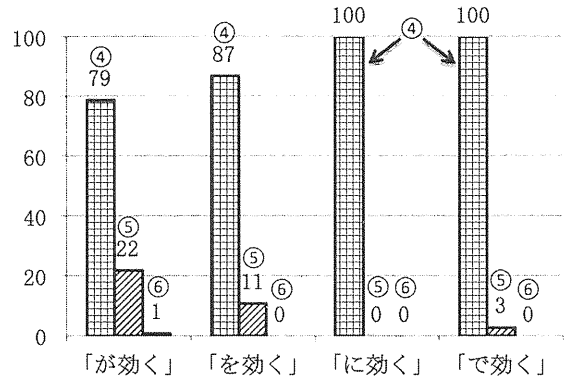


図2 動詞「効く」のコロケーションの上位100に見られる意味

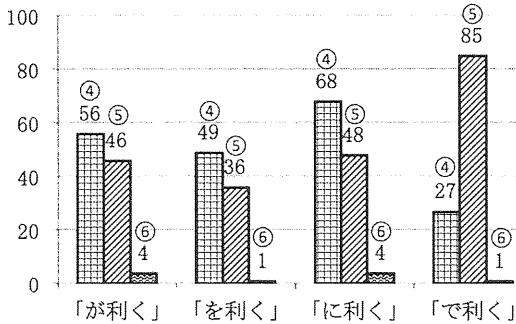


図3 動詞「利く」のコロケーションの上位100に見られる意味

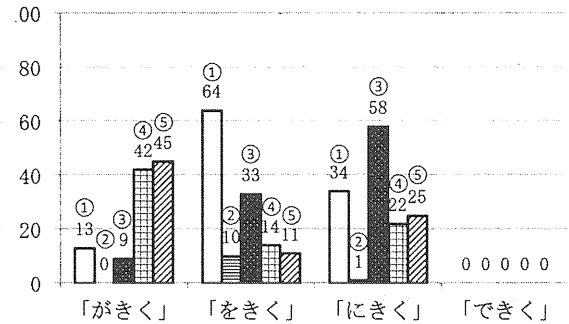


図4 動詞「きく」のコロケーションの上位100に見られる意味

4. コーパス上位語に対する母語話者と日本語上級学習者の主観的判断

4.1 調査3 概要

『NINJAL-LWP for TWC』で上位100位に見られるコロケーションについて、母語話者と日本語学習者各4人に重要かを問うた。母語話者、日本語上級学習者とも茨城県内の大学院生で、上級日本語学習者はいずれもN1レベルである。上位25、50、75、100位のスケールに、各インフォーマントが重要だと判断したコロケーションがどれほど含まれているかを示したもので、4名が重要だと判断すれば4点、3名ならば3点、2名ならば2点、1名のみならば1点という点を与えた。以下、●の数値が日本語母語話者の判断、■の数値が日本語上級者の判断である。

4.2 「聞く」の場合

〈表11〉「が聞く」のコロケーション頻度上位100と日本語母語話者・日本語学習者の判断の一致数

順位 \ 判定	4点		3点		2点		1点	
	母語話者	学習者	母語話者	学習者	母語話者	学習者	母語話者	学習者
上位 1～25	8	3	0	4	0	10	0	7
上位 26～50	12	1	0	2	0	8	0	9
上位 51～75	13	1	0	2	0	6	0	10
上位 76～100	13	0	0	2	0	3	0	10
100位以下	54	0	0	1	0	6	0	15

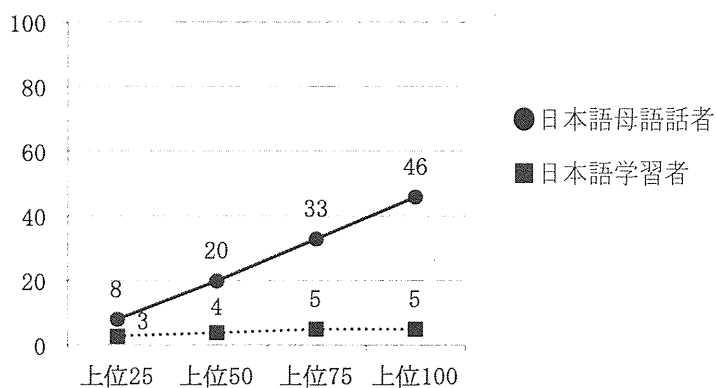


図5 「が聞く」コロケーション判定の累積数

〈表12〉「を聞く」のコロケーション頻度上位100と日本語母語話者・日本語学習者の判断の一致数

順位 \ 判定	4点		3点		2点		1点	
	母語話者	学習者	母語話者	学習者	母語話者	学習者	母語話者	学習者
上位 1～25	21	18	0	3	0	0	0	0
上位 26～50	21	8	0	10	0	0	0	0
上位 51～75	17	9	0	7	0	0	0	0
上位 76～100	18	7	0	2	0	0	0	0
100位以下	23	12	0	24	0	0	0	0

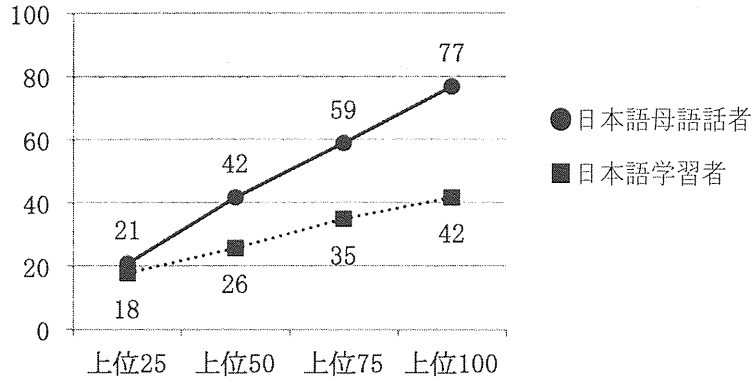


図6 「を聞く」コロケーション判定の累積数

〈表13〉「に聞く」のコロケーション頻度上位100と日本語母語話者・日本語学習者の判断の一致数

順位 \ 判定	4点		3点		2点		1点	
	母語話者	学習者	母語話者	学習者	母語話者	学習者	母語話者	学習者
上位 1～ 25	12	10	0	6	0	1	0	6
上位 26～ 50	15	4	0	4	0	7	0	3
上位 51～ 75	14	1	0	7	0	3	0	3
上位 76～100	10	1	0	3	0	4	0	0
100位以下	49	0	0	8	0	29	0	0

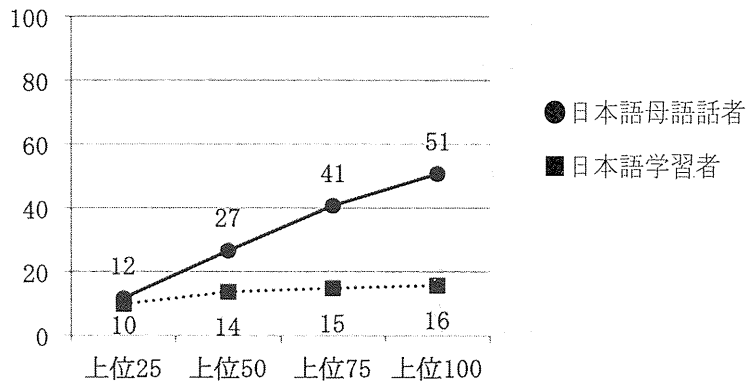


図7 「に聞く」コロケーション判定の累積数

〈表14〉「で聞く」のコロケーション頻度上位100と日本語母語話者・日本語学習者の判断の一致数

順位 \ 判定	4点		3点		2点		1点	
	母語話者	学習者	母語話者	学習者	母語話者	学習者	母語話者	学習者
上位 1～25	16	8	0	5	0	5	0	0
上位 26～50	13	7	0	10	0	5	0	0
上位 51～75	15	2	0	14	0	1	0	0
上位 76～100	14	1	0	11	0	5	0	0
100位以下	42	1	0	10	0	15	0	0

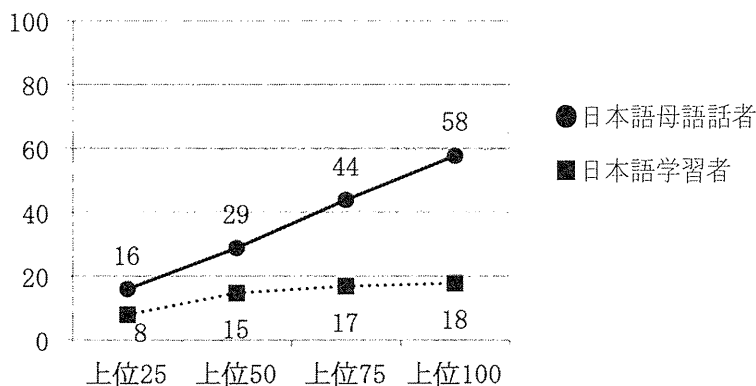


図8 「で聞く」コロケーション判定の累積数

日本語母語話者は助詞が変わってもいずれも4点となっており、重要なコロケーションであることが4名ともコーパス上の頻度100位までに含まれることを示す。特に「を聞く」では、コーパス上位25位の中で、21のものを日本語母語話者は重要だと判断している。つまり、コロケーション上の頻度と母語話者の直感は合致していることがわかる。それに対して、日本語上級学習者には特に「が聞く」では1点の数値が多く、これは4名の判断が割れたことを示している。

4.3 「効く」の場合

〈表15〉「が効く」のコロケーション頻度上位100と日本語母語話者・日本語学習者の判断の一致数

順位 \ 判定	4点		3点		2点		1点	
	母語話者	学習者	母語話者	学習者	母語話者	学習者	母語話者	学習者
上位 1～25	21	11	0	4	0	6	0	2
上位 26～50	16	1	0	2	0	6	0	8
上位 51～75	14	0	0	2	0	4	0	7
上位 76～100	14	0	0	1	0	4	0	4
100位以下	35	0	0	3	0	12	0	23

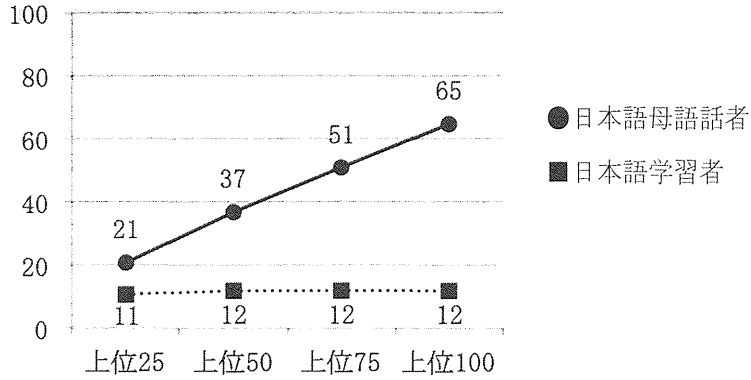


図9 「が効く」コロケーション判定の累積数

(表16) 「を効く」のコロケーション頻度上位100と日本語母語話者と日本語学習者の判断の一致数

順位 \ 判定	4点		3点		2点		1点	
	母語話者	学習者	母語話者	学習者	母語話者	学習者	母語話者	学習者
上位 1～ 25	0	0	16	0	7	1	0	7
上位 26～ 50	0	0	10	0	10	0	0	0
上位 51～ 75	0	0	5	0	10	0	0	0
上位 76～100	0	0	3	0	7	0	0	0
100位以下	1	0	13	0	18	0	0	6

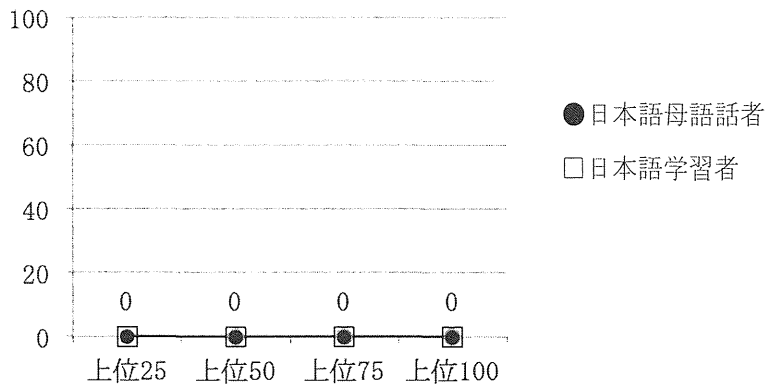


図10 「を効く」コロケーション判定の累積数

〈表17〉「に効く」のコロケーション頻度上位100と日本語母語話者・日本語学習者の判断の一致数

順位 \ 判定	4点		3点		2点		1点	
	母語話者	学習者	母語話者	学習者	母語話者	学習者	母語話者	学習者
上位 1～ 25	24	6	0	8	0	5	0	5
上位 26～ 50	14	4	0	8	0	4	0	7
上位 51～ 75	10	1	0	1	0	6	0	1
上位 76～100	12	0	0	0	0	7	0	0
100位以下	40	1	0	9	0	27	0	0

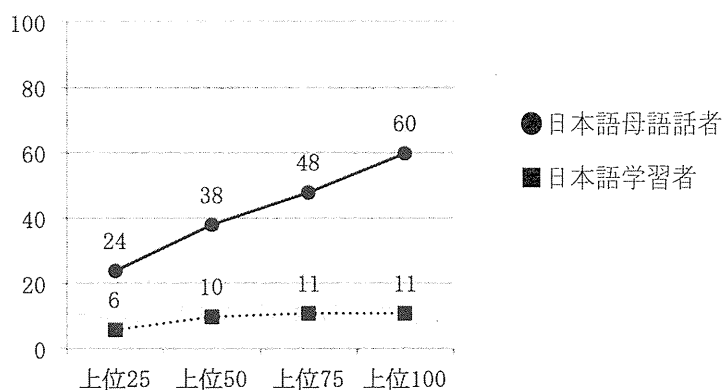


図11 「に効く」コロケーション判定の累積数

〈表18〉「で効く」のコロケーション頻度上位100と日本語母語話者・日本語学習者の判断の一致数

順位 \ 判定	4点		3点		2点		1点	
	母語話者	学習者	母語話者	学習者	母語話者	学習者	母語話者	学習者
上位 1～ 25	5	0	12	5	3	6	0	6
上位 26～ 50	0	0	3	1	12	3	0	6
上位 51～ 75	0	0	5	0	9	0	0	6
上位 76～100	3	0	1	0	6	0	0	6
100位以下	3	0	24	0	14	0	0	16

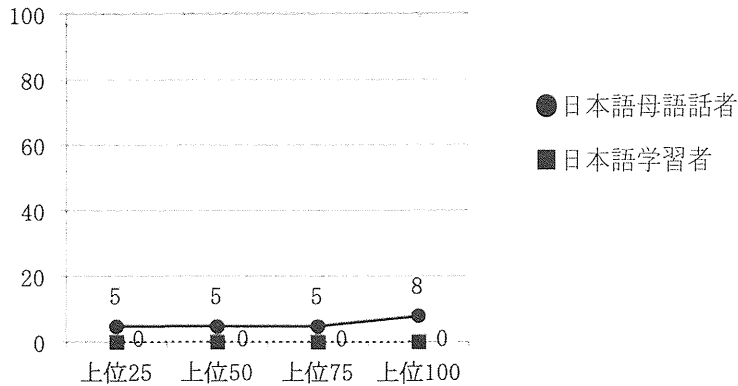


図12 「で効く」コロケーション判定の累積数

日本語母語話者は、「が効く」「に効く」はコーパス頻度と正の相関をもっているが、「に効く」「で効く」は合致する数値が非常に低く、日本語学習者の判断についても、いずれも日本語母語話者を上回ることはない。

4.4 「利く」の場合

〈表19〉「が利く」のコロケーション頻度上位100と日本語母語話者・日本語学習者の判断の一致数

順位 \ 判定	4点		3点		2点		1点	
	母語話者	学習者	母語話者	学習者	母語話者	学習者	母語話者	学習者
上位 1～ 25	22	4	2	9	0	8	0	0
上位 26～ 50	17	0	5	2	0	6	0	12
上位 51～ 75	8	0	5	1	0	2	0	4
上位 76～100	5	0	9	0	0	1	0	2
100位以下	15	0	12	0	0	2	0	14

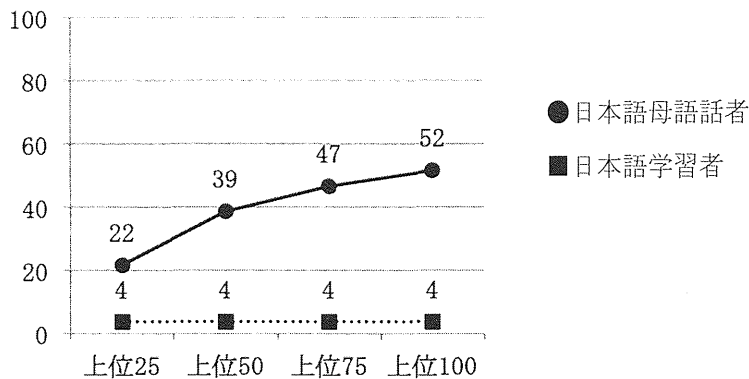


図13 「が利く」コロケーション判定の累積数

〈表20〉「を利く」のコロケーション頻度上位100と日本語母語話者・日本語学習者の判断の一致数

順位 \ 判定	4点		3点		2点		1点	
	母語話者	学習者	母語話者	学習者	母語話者	学習者	母語話者	学習者
上位 1～ 25	4	1	13	0	4	3	0	2
上位 26～ 50	1	0	7	0	10	0	0	2
上位 51～ 75	2	0	1	0	10	1	0	4
上位 76～100	0	0	1	0	5	0	0	0
100位以下	0	0	3	0	39	1	0	2

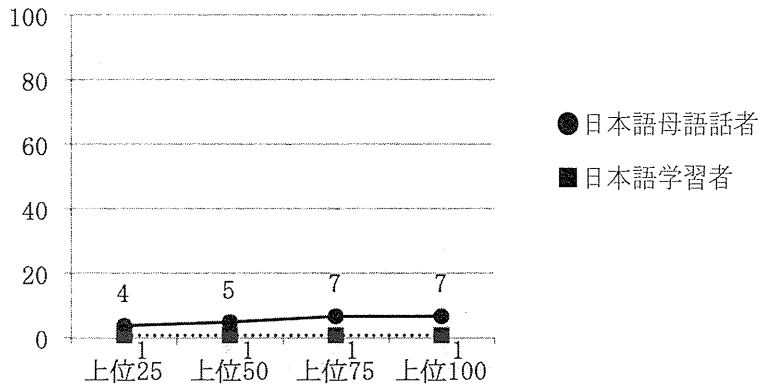


図14 「を利く」コロケーション判定の累積数

〈表21〉「に利く」のコロケーション頻度上位100と日本語母語話者・日本語学習者の判断の一致数

順位 \ 判定	4点		3点		2点		1点	
	母語話者	学習者	母語話者	学習者	母語話者	学習者	母語話者	学習者
上位 1～ 25	8	1	11	1	0	5	0	8
上位 26～ 50	3	0	9	3	0	0	0	6
上位 51～ 75	1	0	9	0	0	1	0	6
上位 76～100	2	0	7	0	0	0	0	4
100位以下	4	0	46	0	0	1	0	7

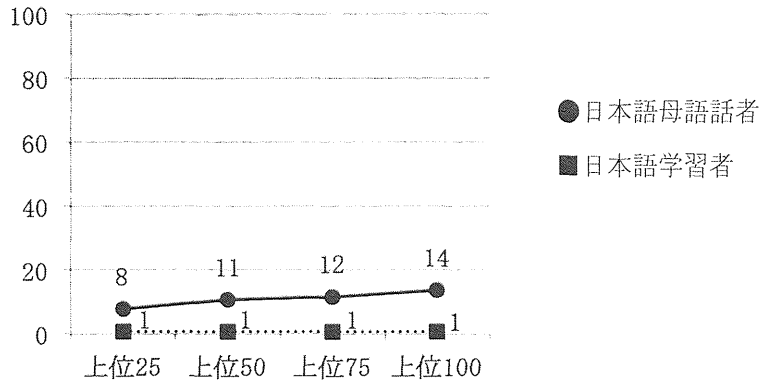


図15 「に利く」コロケーション判定の累積数

〈表22〉「で利く」のコロケーション頻度上位100と日本語母語話者・日本語学習者の判断の一致数

順位 \ 判定	4点		3点		2点		1点	
	母語話者	学習者	母語話者	学習者	母語話者	学習者	母語話者	学習者
上位 1～ 25	0	0	11	0	5	4	0	6
上位 26～ 50	0	0	1	0	9	2	0	5
上位 51～ 75	0	0	2	0	8	0	0	3
上位 76～100	0	0	2	0	9	0	0	2
100位以下	1	0	13	0	39	0	0	2

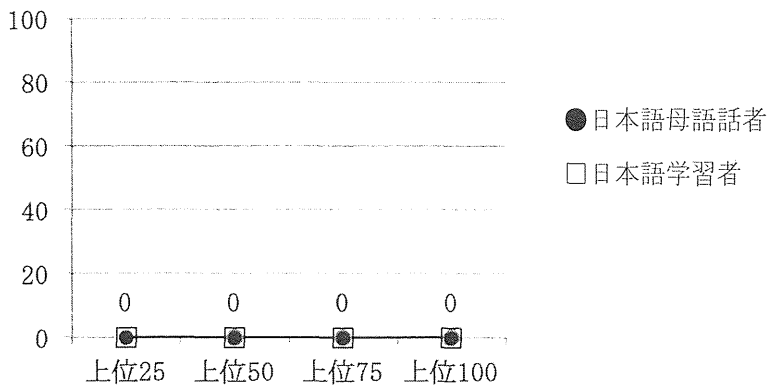


図16 「で利く」コロケーション判定の累積数

日本語母語話者の「が格」のみ正の相関が見られ、他の格では異なりが見えず、日本語学習者においても同様で、判断が割れていることがわかる。

4.5 「きく」の場合

最後に、「きく」という表記について観察する。

〈表23〉「がきく」のコロケーション頻度上位100と日本語母語話者・日本語学習者の判断の一致数

順位 \ 判定	4点		3点		2点		1点	
	母語話者	学習者	母語話者	学習者	母語話者	学習者	母語話者	学習者
上位 1～ 25	20	6	0	5	0	4	0	4
上位 26～ 50	19	3	0	1	0	5	0	7
上位 51～ 75	13	1	0	3	0	3	0	6
上位 76～100	17	0	0	1	0	2	0	5
100位以下	31	0	0	0	0	2	0	21

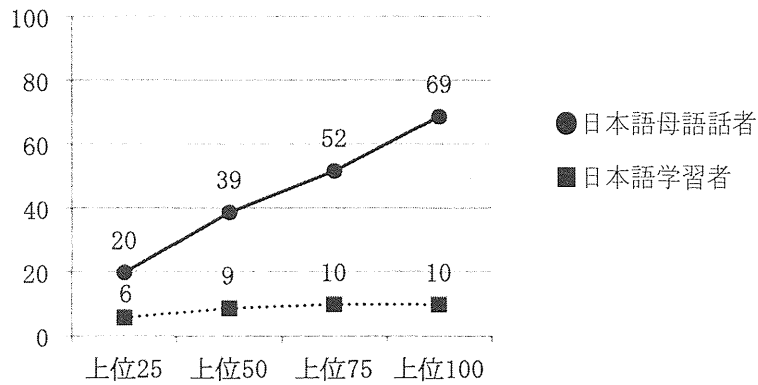


図17 「がきく」コロケーション判定の累積数

〈表24〉「をきく」のコロケーション頻度上位100と日本語母語話者・日本語学習者の判断の一致数

順位 \ 判定	4点		3点		2点		1点	
	母語話者	学習者	母語話者	学習者	母語話者	学習者	母語話者	学習者
上位 1～ 25	17	9	0	4	0	1	0	7
上位 26～ 50	18	6	0	5	0	3	0	4
上位 51～ 75	19	3	0	5	0	5	0	5
上位 76～100	13	0	0	1	0	4	0	7
100位以下	33	0	0	0	0	14	0	17

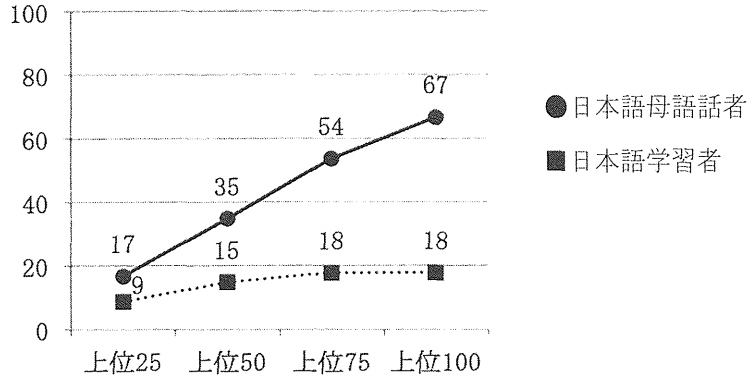


図18 「をきく」コロケーション判定の累積数

〈表25〉「にきく」のコロケーション頻度上位100と日本語母語話者・日本語学習者の判断の一致数

順位 \ 判定	4点		3点		2点		1点	
	母語話者	学習者	母語話者	学習者	母語話者	学習者	母語話者	学習者
上位 1～ 25	19	2	0	7	0	7	0	6
上位 26～ 50	19	3	0	5	0	7	0	5
上位 51～ 75	14	2	0	3	0	9	0	2
上位 76～100	16	0	0	3	0	6	0	5
100位以下	32	0	0	0	0	11	0	17

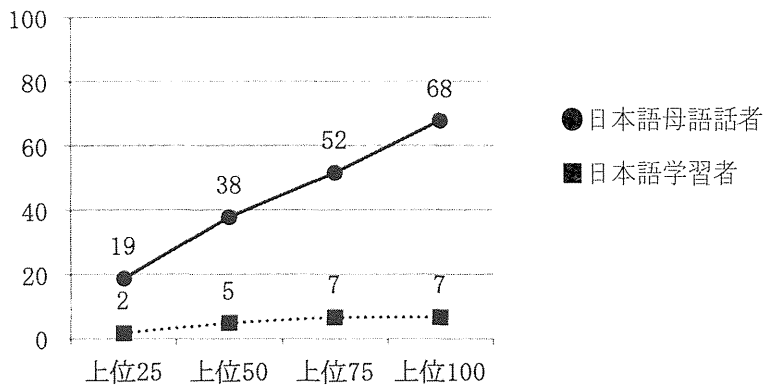


図19 「にきく」コロケーション判定の累積数

〈表26〉「できく」のコロケーション頻度上位100と日本語母語話者・日本語学習者の判断の一致数

順位 \ 判定	4点		3点		2点		1点	
	母語話者	学習者	母語話者	学習者	母語話者	学習者	母語話者	学習者
上位 1～ 25	15	1	1	7	0	7	0	2
上位 26～ 50	3	0	5	2	0	4	0	5
上位 51～ 75	7	0	3	0	0	0	0	4
上位 76～100	3	0	7	0	0	0	0	1
100位以下	27	0	29	0	0	4	0	11

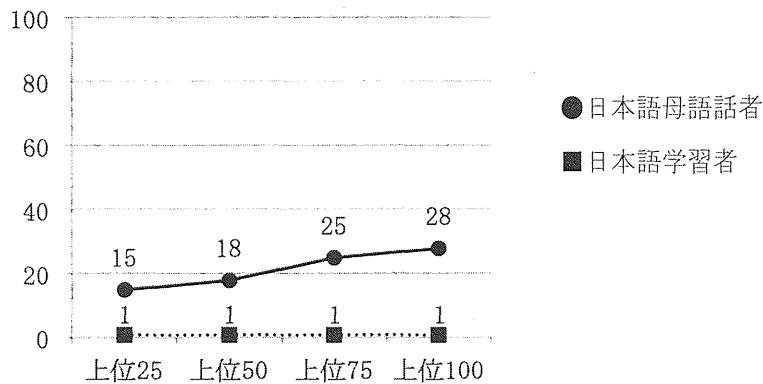


図20 「できく」コロケーション判定の累積数

日本語母語話者は、「聞く」と同様にいずれも4点を示しており判断の一致が見られる。一方、日本語学習者も「効く」「利く」に比べれば一致度が上がっているが、「で格」は特に判断が割れていることがわかる。

5. まとめ

日本語教育のためのコロケーション抽出として、「きく」を例にコーパスの頻度情報と、日本語母語話者と日本語上級学習者の主観的判断からの融合的な調査を行った。「きく」は、日常的に使用頻度が高い理由として、多義であること、そして多様なコロケーションを持つこと、格により基本義が限定されるものがあることを示した。漢字ごとに見ると「聞く」は基本義①②③の3つにまたがり、最も多義であるのに対し、「効く」「利く」では2つの基本義は持つものの、基本義が限定されていく傾向が見られた。

主観的判断については、日本語母語話者が「を効く」「で効く」「を利く」「に利く」「で利く」ではコーパス頻度との正の相関、また4名一致があまり見られなかったが、他では4名一致が非常に多く見られた。日本語上級レベル学習者では判断が割れたことは、学習

者にとって使用語彙が異なっていると言えよう。さらに言えば、未知語としての判断があったかもしれない、この点については今後の課題としたい。

参考文献

- 秋元美晴 (1993) 「語彙教育における連語指導の意義について」 Proceedings of the 4th conference on second language research in Japan : 29-47
- 秋元美晴 (2002) 「連語の研究と語彙運用能力向上のためのその指導法」 水谷修・李徳奉 (編) 『総合的日本語教育を求めて』 国書刊行会 : 233-246
- 石川慎一郎 (2008) 『英語コーパスと言語教育』 大修館書店
- 大曾美恵子・滝沢直宏 (2003) 「コーパスによる日本語教育の研究ーコロケーション及びその誤用を中心にー」 『日本語学』 明治書院 22巻 4月臨時増刊号 : 234-244
- 小野正樹・小林典子・長谷川守寿 (2009) 『コロケーションで増やす表現 Vol.1ーほんきの日本語ー』 くろしお出版
- 小野正樹・小林典子・長谷川守寿 (2010) 『コロケーションで増やす表現 Vol.2ーほんきの日本語ー』 くろしお出版
- 小野正樹・朱ヒョンジュ・許允瑄・山下悠貴乃・新井優子・孫思琦・伊藤秀明・デヒピティヤスランジディルーシャ・グルミラアリモヴァ (2013) 「5言語の“丁寧”の意味・用法とWEB上のコロケーション分析：日本語・韓国語・中国語・シンハラ語・ドイツ語の分析」 『筑波大学留学生センター日本語教育論集』 28 : 1-21
- 小野正樹 (2013) 「動詞『みる』の多義性とコロケーション」 「2013年度中央アジア国際研究集会「日本語学習辞書開発の支援を考える」発表要旨, http://jisho.jpn.org/?page_id=933
- 国広哲弥 (1985) 「慣用句論」 『日本語学』 明治書院 4巻(1) : 4-14
- 阪田雪子 (1990) 「連語・慣用句」 玉村文郎 (編) 『日本語の語彙・意味(下)』 明治書院 : 224-252
- 三好裕子 (2007) 「連語による語彙指導の有効性の検討」 『日本語教育』 134号 : 80-89
- 宮地裕 (1985) 「慣用句の周辺ー連語・ことわざ・複合語ー」 『日本語学』 明治書院 4巻(1) : 62-75

参考資料

- 『筑波ウェブコーパス (NINJAL-LWP for TWC)』 <http://corpus.tsukuba.ac.jp/>
- 『広辞苑』 第6版、岩波書店
- 『計算機用日本語基本動詞辞書 IPAL (Basic Verbs)』 (1987) 情報処理振興事業協会 (IPA)